

「八幡大縁起」壮大に初披露

やわた市民音楽祭 演奏に喝采



1月31日、やわた市民音楽祭(やわた市民文化事業団主催、文化協会共催)が文化センター大ホールで行われ、石清水八幡宮の祭神「八幡神」の伝承をテーマにした創作曲「八幡大縁起」が、一般公募で集まった合唱団員らによって初披露されました。

八幡大縁起は、「八幡神」が戦や豊稔の神など、多面に変貌する姿を表現したオーケストラ曲「八幡縁起」を創作した作曲家、平野一郎さんが声楽入りの次作として作詞、作曲。

合唱団は、市民を中心に132人で構成され、本番に向けて全体や個人で練習を重ねてきました。

当日は、第一部で八幡市民オーケストラによる管弦楽演奏が行われた後、第二部で八幡大縁起を披露。

同オーケストラの演奏の中、団員たちの混声合唱とプロ歌手4人の歌声が、時に力強く、時に厳かにホールの響き渡り、要所では団員たちが手足を打ち鳴らすなど、壮大に曲を奏でいました。

演奏が終わると、観客から称賛の声がかけられ、出演者たちに惜しみない拍手が送られていました。

▲ 創作曲「八幡大縁起」を披露する出演者たち

心をこめて松花堂弁当作り

2月15日、八幡小学校6年1組の児童29人が松花堂弁当を作り、お世話になった先生たちを招待して一緒にいただきました。

この取り組みは、八幡発祥の松花堂弁当を児童たちの手で作ってもらおうと、京都吉兆の村上寛治さんを講師に招いて行ったのが始まりで、毎年、同校6年生がクラスごとに実施しています。

児童たちは、昨年6月に村上さんから松花堂弁当の歴史やだしの取り方などを勉強。当日は、クラスごとに考えた主菜の調理に取り組みました。

1組はチーズ、キノコソース、おろしポン酢の3種類の豆腐ハンバーグに挑戦。児童たちは、豆腐や鶏ミンチなどを混ぜ合わせ、タネを作って丸く成形。熱したフライパンにのせ、火加減や焼き具合に気を配りながら調理していました。

ハンバーグのほかに、給食室で調理した煮物やフルーツなどを四つ切りの弁当箱に盛り付けて完成したら、先生を招いて「いただきます」。彩りよく盛り付けられた料理にはしを伸ばし、みんなおいしそうに口に運んでいました。



弁当箱に料理を盛り付ける児童たち

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

流れ橋の復旧工事を見学する参加者たち



「流れ橋」復旧現場を見学

3月27日の通行再開に向けて復旧工事が続く上津屋橋(通称:流れ橋)の工事現場見学会が2月6日、橋を管理する山城北土木事務所の主催で行われ、市内外から約150人が参加しました。

一昨年8月、豪雨による増水で橋が4年連続の流出となったため、京都府は検討委員会を設置し、橋のあり方について検討。結果、橋のかさ上げや、橋脚の一部コンクリート製への変更など、流れにくい構造での復旧を決め、昨年11月から工事を進めてきました。

参加者たちは、四季彩館で同事務所の職員から橋の歴史や工事の概要について話を聞いた後、工事現場を見学。工事は、大半の橋脚が設置され、一部では橋板の設置も進んでおり、参加者たちは担当者から説明を受けながら、興味深そうにその様子を見学していました。

橋は、3月27日(日)午前10時から有都小学校体育館、現地で開通式が開催された後、通行可能になります。

守るぞ国宝「はちまんさん」

総合防火訓練

同訓練は、本殿西側の林からの出火を想定して実施。自衛消防隊員たちは、参拝者や負傷者、ご神体を模した木箱などを避難誘導させながら、消火用バケツで初期消火。その後、消火栓に繋いだホースから放水を行う中、消防職員、消防団員もそそくそと現場に駆けつけて放水に加わり、国の宝を守ろうと、真剣な眼差しで訓練に取り組んでいました。

2月9日付の官報告示により、本社10棟が正式に国宝に指定された石清水八幡宮で2月12日、総合防火訓練が行われました。昭和22年2月12日、社務所で火災が発生し、貴重な文化財を失ったことを教訓に、毎年この時期に実施される同訓練。例年、石清水八幡宮の神職で結成した自衛消防隊員と、消防職員の合同で行われていましたが、今年と同八幡宮が国宝に指定されたことに伴い、地元三区の消防団員も初めて参加しました。



一斉放水を行う自衛消防隊員、消防団員、消防職員たち